

# スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2015年5月28日発行 第50号

## 居場所づくり勉強会 第35弾！

### ～途上国の貧困問題に向き合う・フィリピンの貧困の現状～

こんにちは。築瀬です。僕は去年の9月から半年間、フィリピンのマニラに行き、ストリートチルドレンを支援するNGOでボランティアをしてきました。フィリピンといえばバナナ、キレイな海、フィリピンパブ！？などをイメージする方も多いと思います。しかし、実はフィリピンは経済格差が大きく、とても貧しい国の一つだと言われています。日本に見劣りしない高層ビルや巨大ショッピングモールがある一方、すぐ側には、板やブリキを張り合わせただけの家が密集するスラムがあり、少し道を歩けば、物乞いをする子供や路上生活をする人々がたくさん目に付きます。

また田舎に行けば、そこで見える海や緑はとてもきれいですが、農業や漁業をする人々の暮らしは都市のスラムよりも厳しいと言われる程で、重労働にも関わらず、低賃金を強いられています。これらは多くの途上国に共通する現状と言われています。

僕は2009年に初めてフィリピンに行って以来、こうした途上国の貧困問題というものに強い問題意識を持ち、また彼らの日々の生活を支えるため、非力ではありながら、個人でできる事をやってきました。今回は、今まで僕が出会ってきた人達の暮らしの様子を紹介しながら、途上国の貧困問題について考える機会を持ちたいと思います

スピーカー：築瀬 仁志さん

日時：7月3日(金)14:00-16:00

場所：日本自立生活センター事務所

参加費：無料

担当：横川



日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：横川

ご意見・企画のアイデアなど大歓迎！バックナンバーはホームページ↓で読むことができます。

TEL:075-682-7950 E-mail:[jcil-kyoto@jcil.jp](mailto:jcil-kyoto@jcil.jp) URL:<http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

## アメリカ・カリフォルニア研修報告 part5

アメリカ研修報告の最終回。研修に赴いたメンバーの感想です。

### ●下林慶史

今回の研修では、ロサンゼルスやバークレー、サクラメントを訪れましたが、中でも私が印象的だったのは自立生活運動発祥の地バークレーCILの新所長、スチュワート氏の言葉でした。スチュワート氏は「私たちは先輩方の活動の恩恵を受ける第一世代です。今はハード面よりソフト面（人の考え方）変えていくことが重要です。」と笑顔で、しかし力強く語っておられました。

日本でも、次世代育成が大きな課題ですが、この「次世代」という言葉が漠然としている印象を持っていましたが「先輩方の活動の恩恵を受ける第一世代」という捉え方を聞いたときに自分の中でストンと落ちるものがありました。活動の恩恵を踏まえた上で継承・発展させていくことが大切なのだと感じました。

また、CIL以外でも盛んに「インディペンデントリビング（自立生活）」という言葉聞いたことや、自立生活に対して確固たるイメージを持って、それに向けて取り組まれていること、カリフォルニア州にあるランタマン法という州法では、脳性マヒは身体障害ではなく発達障害に分類されていること、障害者の就労・雇用については、アメリカ全体の課題として至るところで様々な取り組みが行われていることを知ったときはカルチャーショックでした。加えて、現在はない社会資源でも、その必要性が認められれば、それを実現するために動かなければならないこと、個人に対する支援のきめ細かさは、とても魅力を感じました。

このように現地に行って直接見聞きして感じたことは非常に多かったですが、それだけでなく帰国後にADA 方のドキュメンタリー映画を見ることや他府県のセンターで数日間、お世話になる機会がある中で、改めて感じることや気づくことも同じぐらい多いです。

今はまだ、「日本の今後の障害者運動はこうあるべき」とか「こうしていきたい」という明確なものはないですが、活動を続ける中で今回の経験を活かしながら自分のなりの考えを深めていきたいと思います。

### ●古川大輔

日本自立生活センター自立支援事業所で働き始めて13年目を迎えました。前理事長の長橋氏からADA法（アメリカ障害者法）が制定された時の話など聞いたことが思い出されます。今回、アメリカ・カリフォルニア州に研修に行くことができる機会を頂き、現状を見てこられたことに感謝しています。この研修旅行で感じたことは、障害者が仕事を得て、所得を消費者として使うという意識が、障害者本人や、福祉制度・学校教育の中に浸透しているということでした。暮らしたい家で、暮らしたい人と、自分自身で選択した生活を目指す過程の中で、自立生活プログラムと職業訓練を同時に学び、個人のライフスタイルを形づくるということが一連の流れで行われているように思いました。様々な研修先の中で、『トランジションセンター』、『マイケルズラーニングプレイス』、『DDSO-E+』という、自立生活プログラムと職業訓練が組み合わさっている3カ所が特に印象に残っています。

移動日を除く5日間という限られた時間の中で、各研修先では2時間程度しか時間を取ることができませんでした。しかし、今回の研修旅行では様々な方と出会い、交流できたことは大変意義深いことだと思っています。今後、日本自立生活センターのメンバーがアメリカで学びたいという声が挙がった場合は快く迎えて頂けるような関係を作っていきたいです。

### ●辻本美貴

JCIL で知的障害の方の支援をさせていただいていることもあり、今回の研修に参加させて頂きました。アメリカと日本では文化も全然違いますので、「アメリカのここが良くて、日本のここがだめ」とは一概には言えないのですが、特に思ったことは「制度の重要性」は非常に強く感じました。カルフォルニア州では、知的障害の方の権利を保障する「ランタマン法」という法律があり、この法律により知的障害者の自立生活が可能になっています。「本人が望むような生活を送るために、最大限の支援を行わなければならない」というもので、「一人暮らしをしたい」ということであれば、一人暮らしに必要なヘルパー派遣の時間数もきっちりもらうことができます。また、当事者のいろんな「したい!」という思いがかなえられていました。たとえば、一人暮らしの家で犬と一緒にくらす、ジャズコンサートを開く、コミュニティカレッジに通う、

地域でボランティアをするなど、「障害者」という型にはまっていないオリジナルの「自分らしい生活」を送っているように見えました。

また、「施設は閉鎖するべき」「自立は当たり前」「地域で生活するべき」「障害者あるなしで分け隔てはダメ」という考え方が社会の常識であり、「障害者の面倒は家族が見て、みれなくなったら施設」なんてコースは今のアメリカでは考えられないようでした。このような意識を日本でつくりだすには、制度や教育、また人々に働きかけて、一つひとつ取り組んでいかなければと思いました。

#### ●上田哲久（ピープルファースト京都代表）

アメリカに生まれて初めて行けてよかったです。

ピープルの親元（ピープルファーストが誕生した場所）に行けてよかったです。

一人暮らしをされている方のところへ行き、見せてもらいました。アメリカは日本と違って、施設はなく、グループホームや普通の家で暮らしていました。

そして、日本へピープルファーストの運動を伝えた方にも会いました。親元で暮らしておられて、少し話しを聞かせてもらえました。僕は京都のピープルファーストの代表なので、もっと自信をつけてやり、と言ってもらいました。代表が困ってしまうと進まないから、だそうです。

日本では主に白いご飯を食べてるんだけど、それがなかったのが残念でした。向こうでは殆どおかずばかりだったから。白いご飯が恋しくなっていました。

#### ●渡邊琢

交差点の信号が変わるのが早い！のろのろしてると、信号がすぐに赤に変わってしまう！今、ぱっとアメリカ社会のことをふりかえるとそんな印象が残ってるかも。時速4.5キロの電動車いすでは、かなり厳しい様子。老人とかも大変だろうな。もちろん車のスピードも速いし、社会全体が要請するスピード感が全体としてかなり早い。なんというのか、弱者には優しくない社会。個々人、強くならないといけない。

でも、その反面、弱者を強者にするためのことは可能なかぎりいろいろと行う、そこには力を注ぐ。弱者が弱者のままであろうとすることは許さない。強くなるためのことはいろいろ支援してくれる。そうしたところがポイントの一つかもしれない。

障害についての考え方にしても、おそらく障害者が障害者のままでいることは認めがたい。障害があっても、社会人として、立派に誇りをもって生きてほしい。そのためのことは社会がいろいろ用意する。だからこそ、障害者関連のどこにいても常に、あちらでは、「独立 independent」、「成功 success」、「社会性」、「自己肯定」等の言葉が並んでいた。

いわゆる作業所はないし、また障害者入所施設、養護学校もどんどん縮小の方向。一般就職、地域での自立生活、インクルーシブ教育、そうしたものが基本的に奨励され、常に社会へのインクルージョンが社会全体として、求められている。

その方向性は時に障害者にとって厳しいものかもしれない。けれども、自己実現へ向けた様々なチャレンジが準備されているので、その意味で夢や希望も多いだろう。挫折した人はどうなるのだろう？もうちょっとゆったり生きてもいいのでは？みたいに思ったりもする。でも、どんな人にも夢や希望は与えようとする社会の方向性からは学ぶものも多かった。

### こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ

日時：7月21日（火）

18:15-19:30（OPEN18:00）

場所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料



\*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

たのしいイベントのおしらせです

# はなそう あそぼう ともだちつくる

きょうと ちてきしょうがい も 集まって  
京都の知的障害を持つなかが

じぶん おも 自分を思いを スピーチしたり、仲良くなったりできる



「はなそう・あそぼう・ともだちつくる きょうとしゅうかい 京都集会」をします。

にちじ 日時 がついつか 7月5日 (日) あさ 朝10時から ゆうがた 夕方4時半 じはん

ばしょ 場所 きょうとしくればな 京都市呉竹文化センター (※たんばばしえき丹波橋駅を降りてすぐのところ) お

さんかひ 参加費 むりょう 無料

## プログラム

① えんそう バンド演奏と歌 うた

② ぶんかん 3分間スピーチ

③ かつどうしょうかい いろんなグループの活動紹介や発表 はっぴょう

④ かいてん ゲーム「ともだち回転ずし」(※じゅんばん順番に色んな人とお喋りします) ひと しゃべ

⑤ ぶんかかい 分科会 (※きょうみ興味のあるテーマ別にわかれて べつ はなし話をします)



ぜひ、みなさん、さんか参加してください。 にっけい日程を いま今から あけておいてくださいね!



**主催、問い合わせ先** きょうとしゅうかいじっこういんかいじむきょく はなそうあそぼうともだちつくる京都集会 実行委員会事務局  
きょうとしみなみくひがしくじょうまつだちょう 京都市南区東九条松田町28メゾングラス きょうとしじゅうじょう 京都十条101 J C I L じえいしーあいえるきづけ 気付  
でんわ 電話 090-8651-3972 (永井) ながい メール うえだ norihisa\_pf@i.softbank.jp (上田)

【後援】 きょうとふ 京都府、きょうとし 京都市、きょうとふしやかいふくしきょうぎかい 京都府社会福祉協議会、きょうとししやかいふくしきょうぎかい 京都市社会福祉協議会、きょうとしきょういくいんかい 京都市教育委員会

きょうとて 京都手をつなぐ育成会 いくせいかい

【後援・助成】 きょうとしんぶんしやかいふくしじぎょうだん 京都新聞社会福祉事業団 じよせい